

# 印旛歴史民俗資料館報

# 印旛

NO.16



発行 令和8年1月11日発行

印西市立印旛歴史民俗資料館

〒270-1616 千葉県印西市岩戸 1742

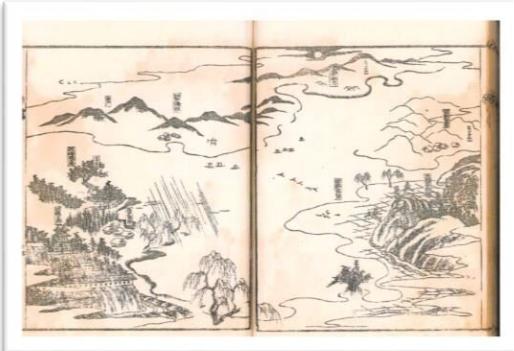
TEL0476-99-0002 FAX0476-99-2223

愛郷を深めよう

ふるさとの歴史を知り、ふるさとに誇りを持つ。



西印旛沼からの富士



利根川図志 岩戸を望む



奈良戸の舟場（寒ぶな漁）



時代の渡し船

## 昭和100年 昔を学び、未来へ



原始・古代より人々が住んでいた地域。その中でも昭和の時代は生活様式が大きく変わった時代です。そして、今なお人々が住み続け、住み続けたい魅力の地域。それは、先人たちからのプレゼントではないでしょうか。歴史は、続いていきます。



伝承  
地区の  
祭り

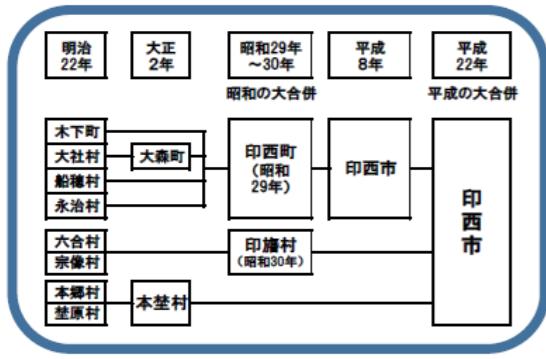


モータリゼーション



利根川図志 花島山

新印西市の成り立ち



時代を見つめてきた大廻地区の大木

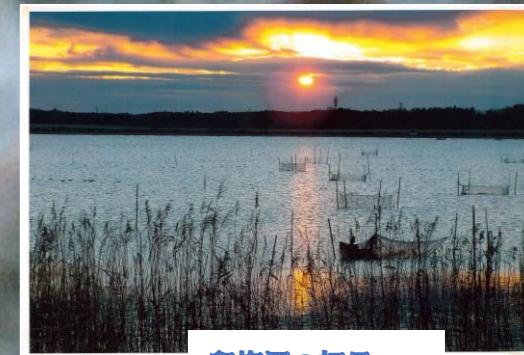
## 百歳の足跡 元気で百歳を迎えた。



スーパームーン



捷範橋



印旛沼の初日



栄養改善  
ブロックリーの  
苗の全戸配布



開校当時の印旛中学校



フィールド  
アスレティック



大廻鎌苅道路  
指標（草深）



印旛中学校 第1回卒業式（男子）



蝶梅



印旛村役場



角崎船着き場



宗像中学校卒業記念



六合中学校



宗像中学校

## ■展示資料紹介

田舟は、弥生時代から使用されていました。一つは人が乗り、収穫した舟や肥料などを運搬するもので、川や用水路で使用します。もう一つは田の中で使用するもので、土・苗・稻などを乗せ、人が引く小型のものです。舟の形は前後左右が同じ形の箱型が多く、どの方向にも押し引きができるのが特徴だといわれています。展示している舟は木製で、長さ二・七七m、横幅八六・七cm、高さ三五cmで、前後はなだらかに立ち上がりっています。一般的には田舟と言えば後者を指すことが多く、特に水はけが悪く、ぬかるんでいる湿田でものを運ぶのに重宝されました。近代以降、湿田の乾田化が進むにつれて使用されることになりました。



## ■歴史探訪 身近な旅編

○資料館周辺を巡る

～泉福寺(国重要文化財指定)～

西福寺(岩戸城跡)～

日 時 二月二十八日(土)

午前九時半から午後十二時  
※詳しい募集については、広報、

市ホームページでお知らせします。

## ■映像記録を放映中

○印西市無形民俗文化財

浦部の神楽、鳥見神社の神楽。鳥見神社の獅子舞、八幡神社の獅子舞、別所の獅子舞、いなざき獅子舞。武西の六座念佛の称念佛踊り。印西伝統芸能フェスティバル。

○すばなし(ささのは会)  
印旛沼の竜、松虫姫、お鶴と狛犬、そうふけつぱらのきつね、頬政塚とじごくそば、なまやけのやへい。

## ■利用案内

開館時間 午前九時から午後五時

休館日 月曜日(この日が祝日に当たるとときはその後の日で最も近い休日でない日)。

祝日・年末・年始(十二月二十八日～一月四日)・特別の事情により教育委員会が認めた日

入館料 無料

交通案内 北総鉄道「印旛日本医大駅」より

宗像路線バス(大成交通)「岩戸」下車徒歩五分

## ■編集後記

館報第十六号をお届けします。

「昭和百年」のテーマも最終号を迎えました。写真一枚、一枚の情報は少ないかもしれません、重ねることで地域や人の様子が見えてきたと感じます。次の百年に向けて資料館ができることを重ねていきたいと思います。(N)

様々な方々のご協力があり、いんば地域の昭和百年百コマの写真が揃いました。感謝の気持ちでいっぱいです。いんば地域の歴史を

館報・歴史探訪冊子作成、身近な旅の開催等いろいろな角度から紹介しようと行動すると、郷土の歴史を大切に思う人に多く出会いました。それぞれの想い方があることも感じました。開館は印旛村立歴史民俗資料館でしたが、印西市立印旛歴史民俗資料館として令和八年度に40周年を迎えます。

## ■研究紀要

2号～7号  
創刊号は売切れ

## ■有償頒布



## ■案内図



(み)